

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

本日（21日）10時30分から、陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第1飛行隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で、前回（18日）と比較して大きな変化はありませんでした。

新燃岳火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から10kmを超えて降りました。

また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

### ○活動概況

#### ・上空からの調査（図1、図2）

本日（21日）10時30分から、陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第1飛行隊の協力を得て行った上空からの調査では、蓄積された溶岩の大きさは直径600m程度で、前回（18日）と比較して大きな変化はありませんでした。また、噴煙は白色で火口縁上100mの高さに達し、主に蓄積された溶岩の縁辺及び火口壁から上がっていました。

赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、噴火が継続していた3日と比べると、前回（18日）及び本日（21日）とも高温の領域が小さくなり、溶岩の表面温度が低下していました。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

火口内に蓄積された溶岩は直径 600m程度で前回（18日）の調査と比較して大きな変化はありませんでした。

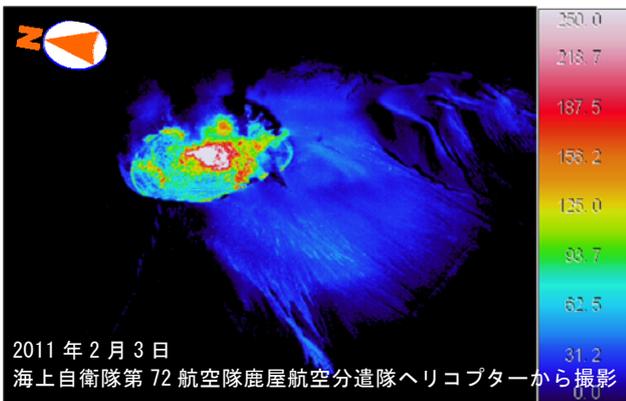
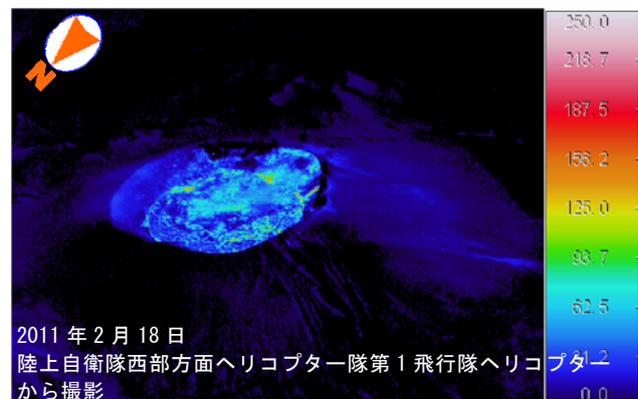
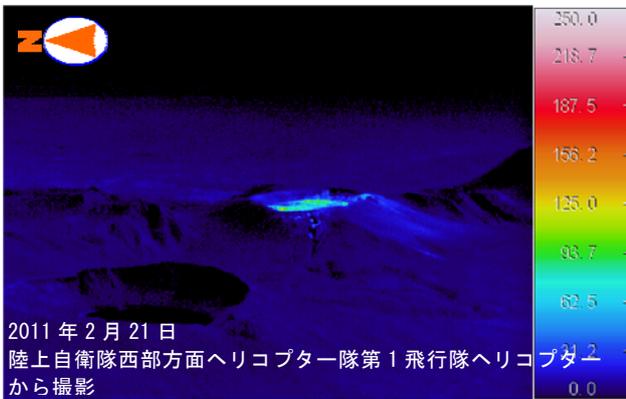


図2 霧島山（新燃岳） 火口付近の表面温度分布

赤外熱映像装置による観測では、噴火が継続していた3日と比べると、前回（18日）及び本日（21日）とも高温の領域が小さくなり、溶岩の表面温度が低下していました。